



2019中日友好交流ピンポン大会



ピンポン大会参加者

11月下旬にしては暖かい土曜日となった23日の午後、上海市内の唐薇依ピンポン館で中日友好交流ピンポン大会が開催された。唐薇依ピンポン館は静安区内で移転しており、以前より会場が若干狭くなったことから、今回は中方27名、日方22名の49名でのピンポン大会となった。

上海日本商工クラブでは公認される以前の2001年から「上海市政府公務員日本語コース」を協賛しており、その受講生やOBと商工クラブ会員などの交流を目的として、開講10周年を機に交流イベントが始まり、2013年からピンポン大会となった。都合により開催できない年もあったが、今回で5回目となり、和やかな温泉旅館の卓球から白熱した打ち合いまで多彩なゲームが繰り広げられた。

公務員日本語コース修了式

大会に先立ち、第34期日本語

コース上級クラスの修了式が執り行われた。上級クラス12名の修了者(当日参加11名)は、日本語の歌の合唱で学習の成果を披露した。引き続き上海外服(FSG)研修センターの陳主任と商工クラブの中村事務局長から修了証がそれぞれの修了者に手渡された。

ピンポン大会開会式～1回戦

商工クラブ社会貢献委員会の松浦豊委員長(TDK(上海)国際貿易有限公司・総経理)は、開会あいさつの中で、今回のピンポン大会は日中両国政府による「日中青少年



歌を披露する上級クラス修了生

交流促進年」の認定事業となっていること、また、在上海日本国総領事館の「日中交流集中月間」の事業としても登録されていることを紹介した。また、委員長は「本部席で観戦するものと思っていたが、自分も試合に出場すると知って、温泉卓球の経験で頑張る」と皆を笑わせた。

1回戦は参加者が6台の卓球台に分かれ、1台につき7～8名が割り振られた。試合は2ゲーム先取の総当たり戦で、1台につき上位4名が2回戦に進む方式とした。優勝候補と目される参加者たちは順当に勝ち上がっていった。

2回戦～4回戦

2回戦からはトーナメント方式となり、まずは2回戦進出者24名のうち12名の勝者が3回戦に進み、さらに3回戦の勝者6名が4回戦を戦った。3回戦に勝ち残った6名には最年少参加者の朱灝涵君(小学2



開会式で挨拶する松浦社会貢献委員長



決勝戦



上位3名の表彰



優勝した元民政局の張志平さん

年生、外服研修センター職員の子息)が残り、卓球教室に通っている成果を見せていたが、4回戦で惜しくも敗れ、来年は優勝すると誓っていた。

準決勝～決勝戦

3名が残っているので、変則的な準決勝であるが、まずはくじ引きを行い、当たった選手は直接決勝戦に進み、残りの2人が準決勝戦を戦った。ここまで来ると、プレーヤーの技量は、日本の高校の卓球部出身者でも追いつかないくらいになり、サーブでの回転のかけ方も相当な技量に見えた。これまでプレーしてきた参加者全員が応援に回り、スマッシュが決まる

と「好球(ハオチョー)」と声があがっていた。

最終の決勝戦は、元上海市民政局で第1期日本語コースに参加した最年長の張志平氏(同氏には商工クラブの法人化に多大な協力をいただいた)と、上海市労働保障監査総隊の万子锐氏の戦いとなった。両者が1ゲームずつを取った最終ゲームは、老獪な張志平氏のサーブが相手を圧倒し、数年ぶりの優勝を果たした。

交流懇親会
ピンポン大会の後には、徒歩10

分のBBQレストランで交流懇親会が開催された。懇親会は、外服研修センター陳主任のあいさつと在上海日本国総領事館の等々力首席領事の乾杯で始まり、日中双方の参加者があちこちで一体となって盛り上がりつつあった。交流会の後半では、ラッキードローが行われ、当選者には大きな拍手が送られた。

最後に

上海市公務員日本語コースは、商工クラブの社会貢献活動として18年以上続いている協賛事業である。上海でビジネスを行う日系企業にとって、市の政府機関窓口などの公務員に日本語を学んでもらい、日本への理解と親しみを覚えてもらうことは、意義あることであるということからスタートしたと聞いている。コースの初期の参加者には市政府の中堅幹部として活躍している方もいるそうである。ピンポン大会は市政府と日系企業の接点を強固にする活動として、有意義なものであろう。

時代に応じて、ピンポンではない交流となることも考えられるが、このような草の根交流が続くことを期待する。



懇親会で盛り上がる参加者